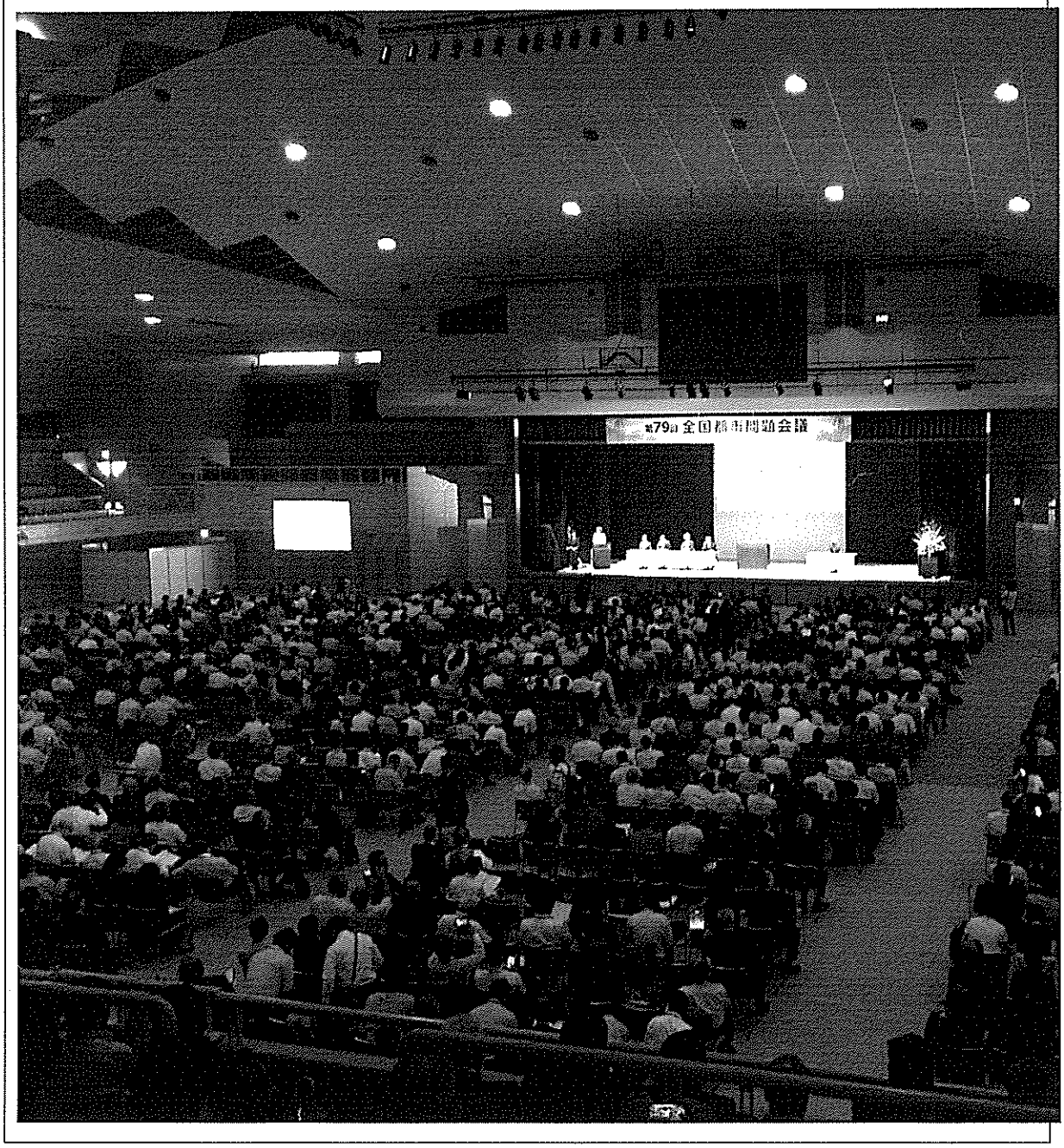
行政視察等報告書（個人用）

平成　29 年　11　月　15 日

知立市議会議長　様

報　告　者	明石　博門
日　　時	平成 29 年 11 月 9 日（木）
視察（研修）場所	那覇市　沖縄県立武道館
目　　的	第 79 回　全国都市問題会議
	地域創生

今年のテーマは「ひとがつなぐ都市の魅力と地域の創生戦略　ー新しい風をつかむまちづくりー」で、初日の開会式に続き、基調講演、主報告、一般報告、パネルディスカッション、閉会式が二日間にわたって行われた。
基調講演では、東京大学資料編纂所の山本博文教授が「多様性のある江戸時代の都市」とのテーマで講演されました。江戸時代の町の特徴は、都市の巨大化、城下町・宿場町・門前町・港町など多様な町の発展について述べられ、封建社会の都市構造について説明されました。
江戸は徳川家の城下町・幕府の所在地であり、全国の大名が藩邸を構え、参勤交代を行っていた。そのため武家人口が飛躍的に増加し、彼らの需要に応じるために商人や職人も人口を増していった。
参勤交代の制度は、街道と宿場町の発展をもたらした。幕府は、街道を整備し、宿場を置き、公用の人馬の提供を義務づけた。公用人馬や周辺農村に課される助郷の負担はありましたが、毎年多くの大名が参勤交代で宿場で宿泊したり休息により宿場は繁栄した。このように江戸時代は、全国各地の多様な性格を持つ町が相互に影響しあって発展した時代だった。町の発展、人の移動とともに、文化や情報も先進的な大都市から地方都市にもたらされ、現在の日本の町の原型を作っていったと述べられ参勤交代がもたらしたもの、現在に続く町のかたちについて触れられました。
本市の宿場町・馬市の発展もこうしたことが影響されていると感じる。
もし家康が岡崎に幕府を構えていたならば、三河・尾張はどんなにか発展していただろうか。

続く、主報告では開催市である那覇市長・城間幹子氏から「ひと　つなぐ　まち　ー新しい風をつかむまちづくりー」と題して、市の魅力と課題などを説明するとともに、その課題解決に向けた取り組みなどが紹介されました。
一般報告では、首都大学東京大学院人文科学研究科准教授の山下祐介氏が「人口減少社会の実像と都市自治体の役割」、北海道釧路市長の蛯名大也氏が「自然と都市が融合し共生が地域の価値を高めるまちづくり」、琉球大学観光産業科学部長で教授の下地芳郎氏が「新たなステージに入った沖縄観光」と、それぞれのテーマで報告が行われました。

コーディネーターと５人のパネリストで行われたパネルディスカッションでは、それぞれのパネリストがそれぞれの立場での都市の魅力づくり、地域創生、ひとづくりなどについて事例の発表や思いが述べられた後、コーディネーターが質問などをぶつけながら進められました。
報告では他の自治体の取り組みなどを知る貴重な機会となり、パネルディスカッションでは地域で持続可能な市民活動が展開されるための「場」と「しかけ」づくりの重要性を改めて感じることとなりました。また、今回のテーマ「ひとがつなぐ都市の魅力と地域の創生戦略」を考えた時、都市の魅力づくりも、地域創生も、豊かさは経済的ではなく、つながりは価値観の共有で、人と人がどうつながるかが重要であり、ひとをつなげる一つのアプローチとして文化芸術の果たす役割が重要ではないかと思いました。
今回の会議で学んだことを、知立市のこれからのまちづくりにしっかりと生かしていきたいと思います。